



金田千賀子 (長田)

大山を離れて わかったこと

生まれも育ちも大山町の私は、ふと他の世界もみたくなりオーストラリアに2年間行き、今年の春に帰国しました。
向こうでも田舎が性に合い、2年間のほとんどを農場や田舎町で過ごし

多くの経験をしました。中でも農場での生活が、自分に一番大きな影響を与えたと思います。その生活の中で今でも印象に残っていることがあります。
ある日「あなたの故郷や暮らしを教えてほしい」と農場仲間での集まりで質問を受けたことがあり、私は正直戸惑いました。今まであまり意識してなかったのですが、大山町について私はあまり知らなかったんだと。
帰国してからはできるだけ行事に参加したり、地域の方々と話したり、楽しみながら生活しています。自分の故郷について、もっと知り、自信を持つて言える自分になりたいと思います。



近藤忠史 (下前谷)

還暦の同窓会 に寄せて

九州の豪雨災害が連日のように報道され、自然への畏怖の念が強く感じられる昨今、私たち名和中学校第26期卒業生の同窓会が今年10月に計画された。
卒業以来45年の歳月が流れ、

154名の同窓生も還暦を迎えて、一人ひとり己の歩んできた人生を振り返り、感慨深いものがあると思う。
前述のとおり日本各地から自然災害等のニュースが頻繁に聞こえてくるが、幸いにして当地では大きな災害の発生はなく、ここで生活できる幸せに日々感謝である。しかし、国際情勢は予断を許さない状況であることはご存知のとおりである。
このように、私たちを取り巻く環境は、厳しさを増しているわけだが、今後の同窓生諸氏のさらなる活躍と、充実した悔いのない第2の人生を送られることをお祈りし、再会を楽しみにしています。



岡崎恭介 (中池谷)

恥をかき、 汗を流す

少子高齢化で、人口が20年後には1万2千人と予測されています。集落・地域をどう維持して行くかという命題があります。
そんななか、地域自主組織の立ち上げがなされています。逢坂地区も

「やらいや逢坂」を平成26年に設立し、今年で4年目に入りました。
将来の実感が湧かないなかで、暗中模索しながら、ふれあい祭り、朝市、カフェ、そば道場などの事業をしています。
イベントは地域の人と人を繋ぐツールであって、地域の安全安心をどう維持していくかという命題を抱えながら、自主組織の活動に恥ずかしながら汗を流しているこの頃です。

あとがき

4月の改選後、議会、執行部とも新しい顔ぶれでの6月定例会が開かれました。一般会計補正予算も全会一致で可決され、新町政が動きはじめました。町民のみなさんの注目も集まったのではないのでしょうか。
そして大山開山1300年祭のプレ・イヤーを迎え、さらに第3回山の日記念全国大会の大山開催が決定し、全国から注目されていることと思います。議会、町執行部は前向きな議論を交わし、イベントの成功はもちろん、より良い町政へと進んで行かなければなりません。
最後に、広報委員の一員としてわかりやすく、読みやすい議会だよりをお届けできるよう努めてまいります。
(森本)

発行/大山町議会 編集/広報常任委員会
〒689-3211 鳥取県西伯郡大山町御米屋328
☎ 0859-54-5213 ☎ 0859-54-5214

議会だよりのご感想をお寄せください!

- 【発行責任者】 議長 杉谷 洋一
【広報常任委員会】
委員長 大原 広巳
副委員長 森本 貴之
委員 野口 俊明
委員 吉原美智恵
委員 近藤 大介
委員 米本 隆記
委員 門脇 輝明
委員 杉谷 洋一